

# 西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する基本構想(案) 概要版

## ■本計画の役割・目的

全国的に少子高齢化が進行する中、西郷村においても児童生徒数の減少が緩やかに進んでおり、学校施設の老朽化も顕在化しています。加えて、情報化・国際化の進展により、学校教育には多様な教育ニーズへの対応や新たな教育的取り組みが求められています。

こうした状況を踏まえ、西郷村教育委員会では、村民の皆様のご意見を伺いながら、**西郷村の未来を担う子どもたちに質の高い望ましい教育環境を提供するため、基本構想及びグランドデザインを策定することとしました。**

将来的な児童生徒数の減少、学校施設の老朽化への対応を検討するため、令和4年度より学識経験者、PTA代表、学校運営協議会(地域代表)、学校関係者で構成する「西郷村学校適正化配置検討委員会」を組織し、学校適正化について議論をおこなってきました。

## ■西郷村教育環境の現状

### ○学級数の見通し

#### 中学校

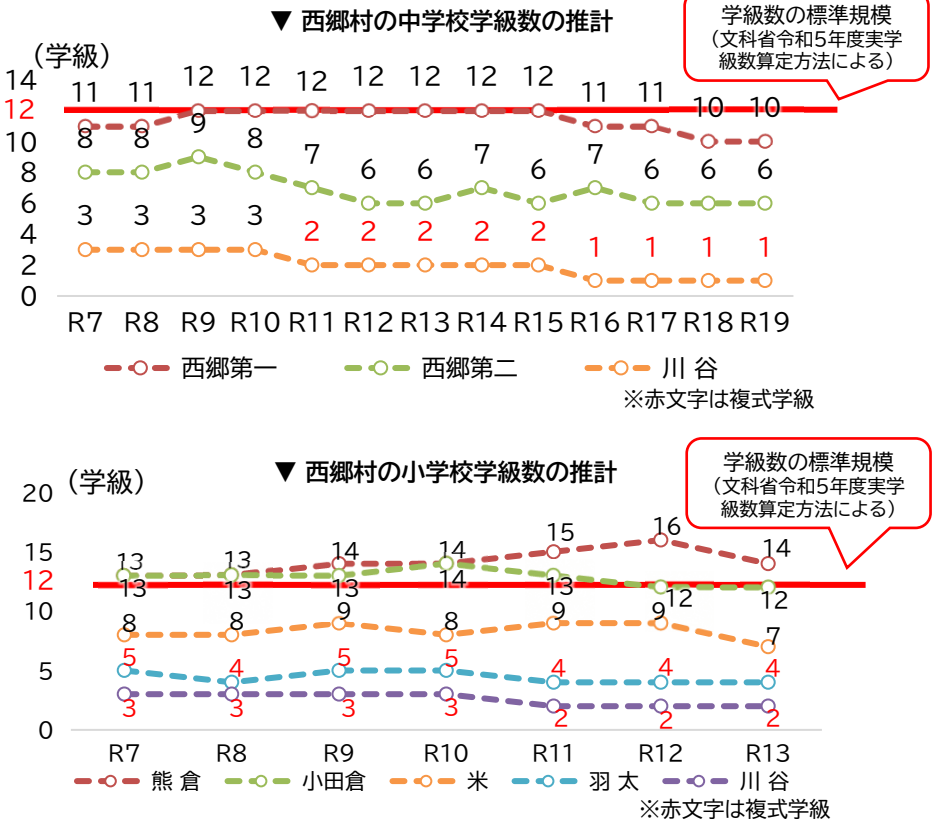
中学校では、**西郷第二中学校及び川谷中学校は標準規模である12学級を下回っており、今後も学級数が減少する見通しです。**

また**西郷第一中学校**は令和9年度から令和15年度にかけて標準規模を確保できますが、**令和16年度以降は標準規模を下回る見通しです。**

#### 小学校

小学校では、**熊倉小学校及び小田倉小学校は、今後も標準規模である12学級を確保できる見通しです。**一方**米小学校、羽太小学校、川谷小学校は現在も標準規模を下回っています。**

特に**川谷小学校、羽太小学校では一部の学年が複式学級**となっています。



### ○学校施設の老朽化の状況

校舎の状況としては、**小田倉小学校が築45年、西郷第一中学校が築49年、羽太小学校が築40年と老朽化が進行しています。**屋内運動場では、**小田倉小学校及び川谷小・中学校が築55年、羽太小学校が築49年と老朽化が進行しています。**

▼ 小学校の学校施設の築年数(令和7年度)

学校名	教室棟		屋内運動場	
	建築年	築年数	建築年	築年数
熊倉	平成4年	33年	平成7年	30年
小田倉	昭和55年	45年	昭和45年	55年
米	平成2年	35年	平成3年	34年
羽太	昭和60年	40年	昭和51年	49年
川谷	昭和63年	37年	-	-

▼ 中学校の学校施設の築年数(令和7年度)

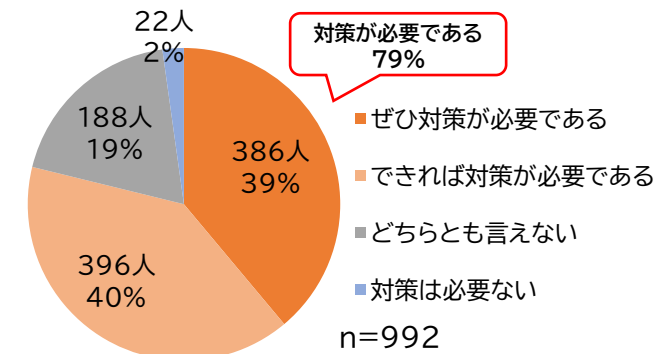
学校名	教室棟		屋内運動場	
	建築年	築年数	建築年	築年数
西郷第一	昭和51年	49年	平成24年	13年
西郷第二	平成11年	26年	平成14年	23年
川谷	昭和63年	37年	昭和45年	55年

## ■村民の意向

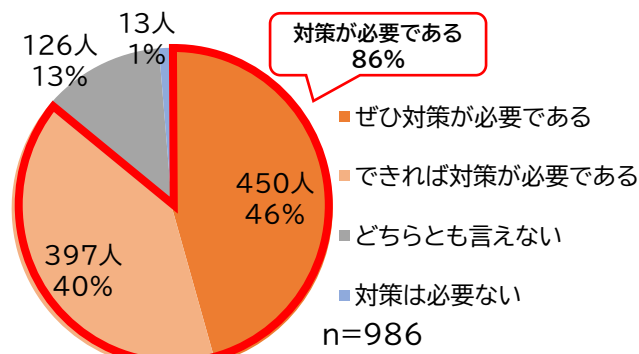
### ○村民アンケート

村民を対象としたアンケートでは、西郷村の**小学校における課題**(複式学級化や子どもたちの人間関係が固定化されるなど)について、「ぜひ対策が必要である」「できれば対策が必要である」と回答した方は**79%**、**中学校における課題**(教員が揃わない、部活動の人数が揃わないなど)について、「ぜひ対策が必要である」「できれば対策が必要である」と回答した方は**86%**と、**課題に対する対策が必要であるという声が多くあげられています。**

▼ 西郷村の小学校における課題について



▼ 西郷村の中学校における課題について



### OPTA・教職員ワークショップ

PTAや教職員を対象としたワークショップを実施し、西郷村の教育環境の将来像を話し合いました。ワークショップでは、「子どもたちの将来像」として、**基礎的な学力の定着、他者理解、楽しく健康的に体を動かすこと、安全・安心な生活環境**などが望まれており、「望ましい教育環境のあり方」として、**個別最適な学習機会、体験活動、学年・学校を越えた多様な交流、多様な運動機会**などが必要とされています。

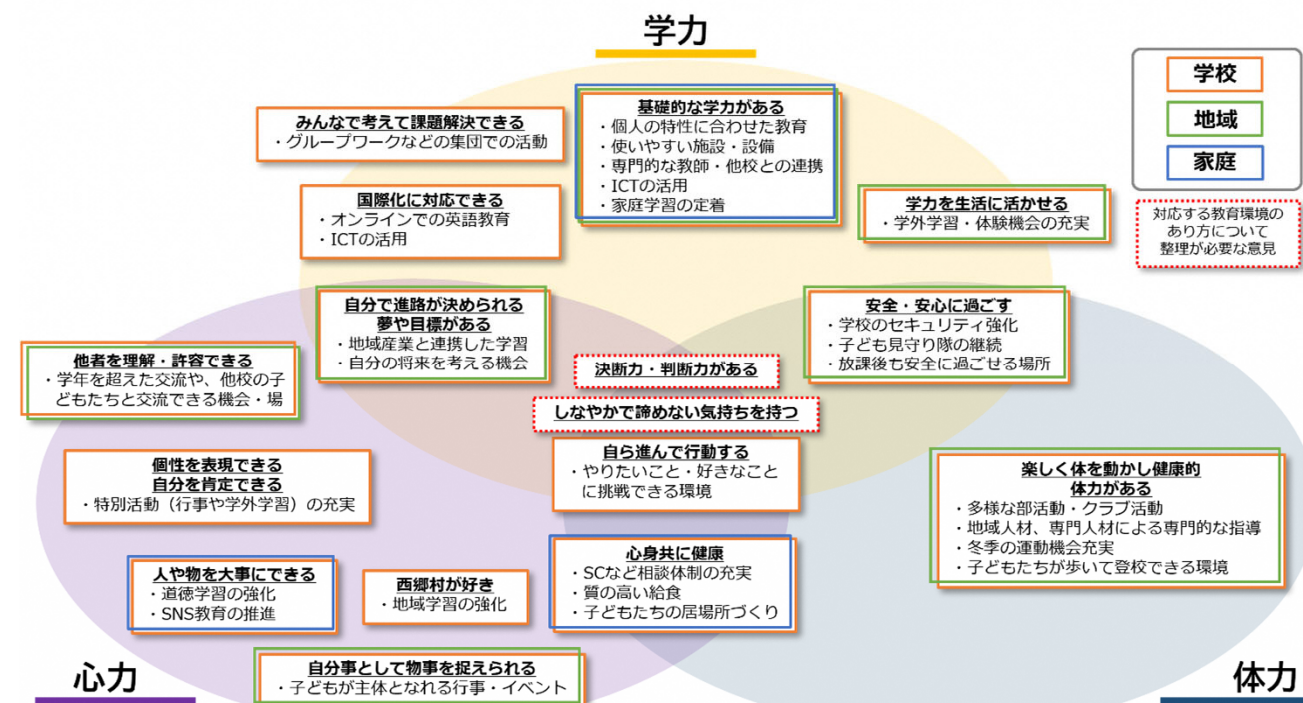
▼ 開催概要

開催校	日時	参加者数
熊倉小学校	令和7年2月18日	13名
小田倉小学校	令和7年2月26日	11名
米小学校	令和7年2月28日	12名
羽太小学校	令和7年2月13日	10名
西郷第一中学校	令和7年2月21日	16名
西郷第二中学校	令和7年2月17日	8名
川谷小・中学校	令和7年2月15日	9名

▼ ワークショップの様子



▼ PTA・教職員WSで出された「望ましい子どもたちの将来像(太字下線部)」と「教育環境のあり方」





# 西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する基本構想(案) 概要版

## ■西郷村の学校教育環境が抱える課題

現状や村民の意向を踏まえ、西郷村の学校教育環境が抱える課題を以下のよう  
に設定します。

### ①児童生徒数の減少への対策が必要

児童生徒数の減少により、以下のような影響が懸念されます。

- ✓ 集団学習機会の減少と教職員の負担増加
- ✓ 集団活動の制限
- ✓ 人間関係の固定化
- ✓ 教科担任制の運用困難と学習内容の低下(中学生)
- ✓ 部活動の制限と指導力の低下(中学生)

### 小中学校の複式学級の解消等、小中学校の小規模化への 対策が必要

### ②将来の児童生徒数を見据えた学校施設の効率的な整備 が必要

小中学校では、校舎や屋内運動場等の老朽化が進行しており、児童生徒  
の安全性や快適性への影響が懸念されます。

### 実情を踏まえ学校の適正な配置を検討し、効率的に新しい 学校施設を整備していくことが必要

### ③家庭・地域と学校の連携の維持が必要

地域住民の人口減少、高齢化の進行により、見守り活動・ボランティアの  
担い手不足が懸念されます。

### 担い手の確保と育成が必要

また、将来にわたって生徒がスポーツや文化芸術活動を続けられるよう、  
地域で行うクラブ活動への移行が進められています。

### 活動を支える人材の育成や、安定的な活動場所の確保が 必要

## ■中学生の意向

特に中学校では、教科担任制の運用や部活動の実施など、生徒数減少による影響を受ける要素が多く存在します。  
中学生の描く望ましい教育環境をより丁寧に把握するため、生徒を対象としたアンケート及びワークショップを実施しました。

### ○中学生アンケート

中学生を対象としたアンケート調査を行い、生徒の  
学習環境に関するニーズや考え方を把握しました。

学級数の減少によるクラブ活動、部活動の種類減  
少や、行事の縮小について問題視しているという  
声が各校からあげられました。

### 学校のクラス数が少なくなることにより 問題だと思うこと

- ・クラブ活動や部活動の種類が少なくなるかもしれ  
ない(63.5%)
- ・運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの行事が小  
さくなったり、できなくなったりすることがある  
(62.4%)

### 学校生活の中で できるようになりたいことや身につけたい力 (高い意向を抜粋)

- ・基礎的・基本的な知識・技能(72.6%)
- ・考える力・思考力(69.5%)
- ・失敗を恐れず、挑戦する力(57.4%)
- ・外国語によるコミュニケーション能力(54.8%)
- ・自ら学ぶ力(53.8%)

### 部活などを通して 学びたいこと、身につけたいこと (高い意向を抜粋)

- ・強い精神力を身につけたい(62.4%)
- ・試合やコンクールで良い成績をあげたい  
(60.9%)
- ・ルールや技術等の基本を身につけたい(55.3%)

### ○中学生ワークショップ

中学生を対象としたワークショップを実施し、中学生の考  
える望ましい学校のあり方について話し合いました。

快適な学習環境や、部活動の充実、生徒が自主的に活動で  
きる行事、地域の人にも役立つ学校などが、望ましい教育  
環境としてあげられました。

### ▼ 開催概要

	日時	参加者	参加者数
西郷第一中学校	令和7年7月8日	3年生	121名
西郷第二中学校	令和7年7月15日	2年生	58名
川谷中学校	令和7年7月15日	1、2、3年生	27名

### ▼ 西郷村の中学生が考える望ましい学校

#### 学校の施設・設備のこと

- ・快適で便利な環境の中で学習・生活できる
- ・施設・設備がだれにとっても使いやすい
- ・体育館、校舎、講堂が広くて快適
- ・トイレ、水道、ロッカーなど設備が充実している
- ・自習や生徒の自主的な活動に使える場がある
- ・ICT環境(Wi-Fi、タブレット、電子黒板など)が整っている
- ・職員室が快適で先生が働きやすい

#### 学校のプログラムのこと

- ・学校行事に全力で取り組める
- ・他校との交流ができる
- ・校外学習や体験型授業が充実している
- ・部活動の種類が多く、充実した活動ができる
- ・自分の学びたいことを授業で学べる
- ・AIやICTを活用した学習ができる
- ・食の楽しみを学べる(家庭科など)
- ・給食が美味しく、十分な量が提供される
- ・村の伝統を学び継承する機会がある

#### 生徒たち自身のこと

- ・生徒全員がお互いを尊重しあえる
- ・行きたいと思える魅力がある
- ・ルールやマナーを守って生活できる
- ・目標に向かって高めあうことができる
- ・個性が発揮できる
- ・主体性が尊重される
- ・明るく、笑顔で生活できる

#### 学校の外的こと

- ・通学の負担が少ない(スクールバスなど)
- ・地域の人にも役立つ学校
- ・地域の人との交流(見守り隊、伝統文化の学びなど)

### ▼ ワークショップの様子



## ■西郷村の望ましい学校教育環境

### 基本目標

自らを高め、共によりよく生き、未来を創造する人を育む学校教育環境

#### 基本方針1

子どもたちにとって魅力的な  
学びやすい学校づくり

- ①教職員の適正な配置
- ②教育支援スタッフの充実
- ③自主性を育てるカリキュラムの充実
- ④みんなで考え、課題を解決する力の育成
- ⑤国際化への対応

#### 基本方針2

一人一人の可能性を伸ばし  
人間力を育む学校づくり

- ①多様な交流機会の創出
- ②子どもが主体となる行事・特別活動の  
充実
- ③人や物を大切にする心の育成
- ④部活動の充実

#### 基本方針3

安全で安心な  
居心地の良い学校づくり

- ①将来の児童・生徒数を見据えた学校  
施設の効率的な整備
- ②柔軟で居心地の良い学習空間の整備
- ③地域に開かれた学校としての整備

#### 基本方針4

未来の地域を担う子どもを  
育む学校づくり

- ①地域学習の充実による郷土愛の醸成
- ②地域産業と連携したキャリア教育の推進
- ③部活動の地域移行に対応した教育環境の  
整備
- ④放課後・休日の居場所づくり
- ⑤安全な通学環境の整備

### ○望ましい学校環境を確保するための方針

中学校においては、教科担任制の運用や多様な  
部活動の実施、生徒の安全性や快適性の確保な  
どの観点から、学級数の減少や校舎の老朽化  
などへの早急な対応が求められています。  
学習環境の質を維持し、児童生徒にとってより良  
い学びの場を提供するためには、標準規模の学  
級数(12~18学級)を確保するために、中学校  
の小規模化の対策を先行して進めるととも  
に、小学校の小規模化への対策についても  
段階的に検討を進めていきます。